

## トッポの知恵袋



<64>

店の看板やメニューの親しみ深い書体でなじみの「まいどおおきに食堂」。外食チェーン、フジオフードシステム(本社・大阪市)の藤尾政弘社長自らの手書き文字だ。「メニューの文字は胃袋に感じてもらわなければならぬ。熱いものは熱く、冷たいものは冷たく書くのが基本」と藤尾社長。

「まいどおおきに食堂」438店を始め、「甲家物語」「かつぼうぎ」など24業態688店を展開する。藤尾社長が一代で築いた。

「地域の食材を使って、地域の人たちに働いてもらい、地域の人たちに来てもらって食べてもらう。この『地産地消』がわが社の社会貢献」と藤尾社長。「まいどおおきに食堂」に、「堺筋食堂」「森町食堂」などと地域名を付けるのはこうした考えからだ。従業員は、「パートナー」と呼ぶアルバイトを含め約1万4千人。うち、地元の主婦ら40

## 赤星憲広氏の福祉活動を支援

### フジオフードシステム

歳以上が約40%を占める。バイトの定年は65歳を基本にしているが、希望があれば更新している。最高齢者は、甲府下石田食堂(山梨県甲府市)で働く女性、87歳。高齢者雇用は今後も促進したいという。

元阪神タイガース選手の赤星憲広氏を取り組んでいる社会福祉活動「Ring of Red」赤星憲広の輪を広げる基金」の支援も続けている。関西一円の同社食堂約300店舗に、赤い募金箱を設置して寄付を募り、同基金に渡している。集まるお金は年間約200万円。

赤星氏は現役時代の03年から、年間の盗塁数分の車いすを全国の施設に贈り続けてきた。09年まで7年間に寄贈した車いすは3001台。引退後も活動を続けるため、基金を設立した。

藤尾社長は小学3年のとき、慢性中耳炎を患い何度か手術をしたが回復せず、今でも左耳が不自由だ。こうした体験もあって「ハンディキャップを抱える人たちに対してできることがあれば」という気持ちを持ち続けている。

赤星氏と藤尾社長との交流は深まり、12年から始まった赤星氏、大阪府交野市など主催の「リングオブレッド交野市チャリティマラソン」を特別協賛企業として支援に乗り出した。第2回大会は去年4月7日、10キロ、3キロ、車いすコースなど合わせて6100人余りが参加、交野市域を駆けつけた。集まった基金は車いすの寄贈などに充てられた。今年4月20日の予定で、すでに参加者の募集は終えている。

さらに、今年12月には、小野マラソン(兵庫県小野市)も開く計画で、交野マラソンと同様の支援を予定している。

(真人)



交野市チャリティマラソン表彰式。左端が藤尾社長、その隣りが赤星氏。去年4月7日、大阪府交野市(フジオフードシステム提供)